

ベトナムにおけるEBUSを中心とした呼吸器内視鏡の展開・発展

- 気管支鏡は呼吸器診療の基本のひとつであるが、世界のガイドラインでも診療上重要とされるEBUS-TBNAなどの気管支鏡技術がベトナムでは未導入であった。当事業は単年更新でおこなっており、2017-2019年度にはベトナム国内でのEBUS実施を成功させ、計8病院で100例程度の実施、計12施設の延べ45人の医師らに研修を行い、一部でEBUSの導入がはじまりつつある。
- EBUSおよび気管支鏡は日本が世界をリードしている分野である。オリンパスベトナム法人の協力のもと、ベトナム語での直接指導ができる専門の日本人医師を中心に、NCGM呼吸器内科として、ベトナム呼吸器学会を窓口としてベトナム全土の主要病院の優秀な医師を公平に募集し、NCGMでの3週間の研修および帰国後に専門家が研修生の医療機関を訪れ講義や実習を行うことで、ベトナム全体へEBUSの早期展開を行う。
- 診療に必要な世界標準の気管支鏡手技が普及することでベトナム全体の莫大な患者に健康利益をおよぼす。医療保険への組み入れなどを経て数年以内にベトナム全体の中核病院に普及、また10年以内には省病院レベルまでの普及を目指せるように中核病院がEBUSの教育ができるようになるよう援助する。

